

中期経営計画（2016年4月-2019年3月） 進捗状況と今後の見通しについて

2017年12月6日

株式会社 図研

東証一部上場 証券コード 6947

目次

- **中期経営計画進捗と今後に向けた方針**
(中間地点での振り返りと目標達成に向けての後半の取組み)

- **事業分野別 上期の状況と今後の見通し**

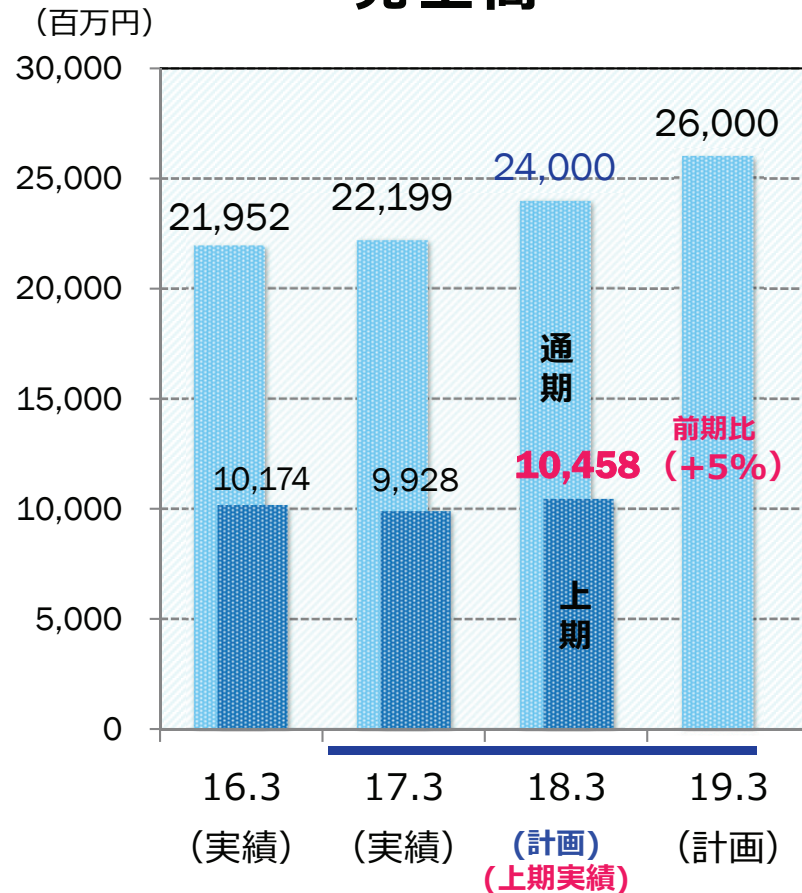
【ご参考資料】**図研**について

中期経営計画進捗と 今後に向けた方針

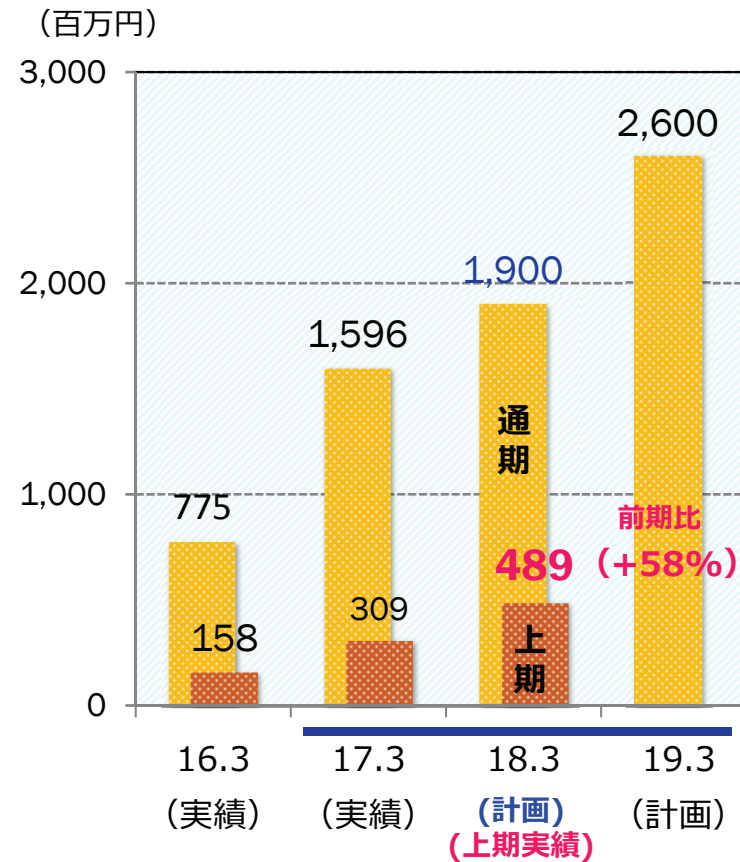
中間地点での振り返りと目標達成に向けての後半の取組み

1. 中期売上・利益目標と実績

売上高



営業利益



※ 18.3期計画の前提為替レート 1USDドル = **115**円 1ユーロ = **120**円
 18.3期上期累計期間の平均為替レート 1USDドル = **111**円 1ユーロ = **126**円

中期経営計画基本方針/重点戦略

■ E/E設計データ管理（PDM）市場開拓

*E/E: Electrical & Electronic

■ 完成車メーカーへの次世代製品導入促進

■ 北米市場、アジア市場での事業拡大

→ 北米戦略顧客との関係をアジアのサプライチェーンに展開

■ CR-8000 Design Forceで 先端実装市場開拓

■ 機動的なM&Aで、事業の強化・拡大 プラス10億円の売上増目指す

2. 中期経営計画前半の振り返り①

■ E/E設計データ管理（PDM）市場開拓

*E/E: Electrical & Electronic

■ 完成車メーカーへの次世代製品導入促進

- ✓ ワイヤハーネス設計、マルチベンダー環境での部品・設計データ管理を実現する新しい「DS-2」プラットフォームの発表（17年5月）
- ✓ 自動車電装設計の論理・物理アーキテクチャ検討を実現する新製品「Architecture Planner」を発表（16年10月）
- ✓ 「E3.series」、「Cabling Designer」の2ラインの2019年度統合を発表（17年10月）

「モジュール設計」、「モデルベース開発」、「グローバル分散開発」など今日的な設計要件に適合したソリューションで「次世代設計環境」への布石

2. 中期経営計画前半の振り返り①

開発方向性 (5)

ZUKEN
Innovation
WORLD

- これからのワイヤハーネス設計/製造のために
 - 強力な2つのソリューションが存在



データベースセントリックデザイン
マルチパーパス

欧州/米国で多く普及
マルチパーパス機能群
マシナリー市場で長い歴史
セントリックデータベースによる動的同期
論理設計に強み



コンカレントデザイン
輸送機器に特化

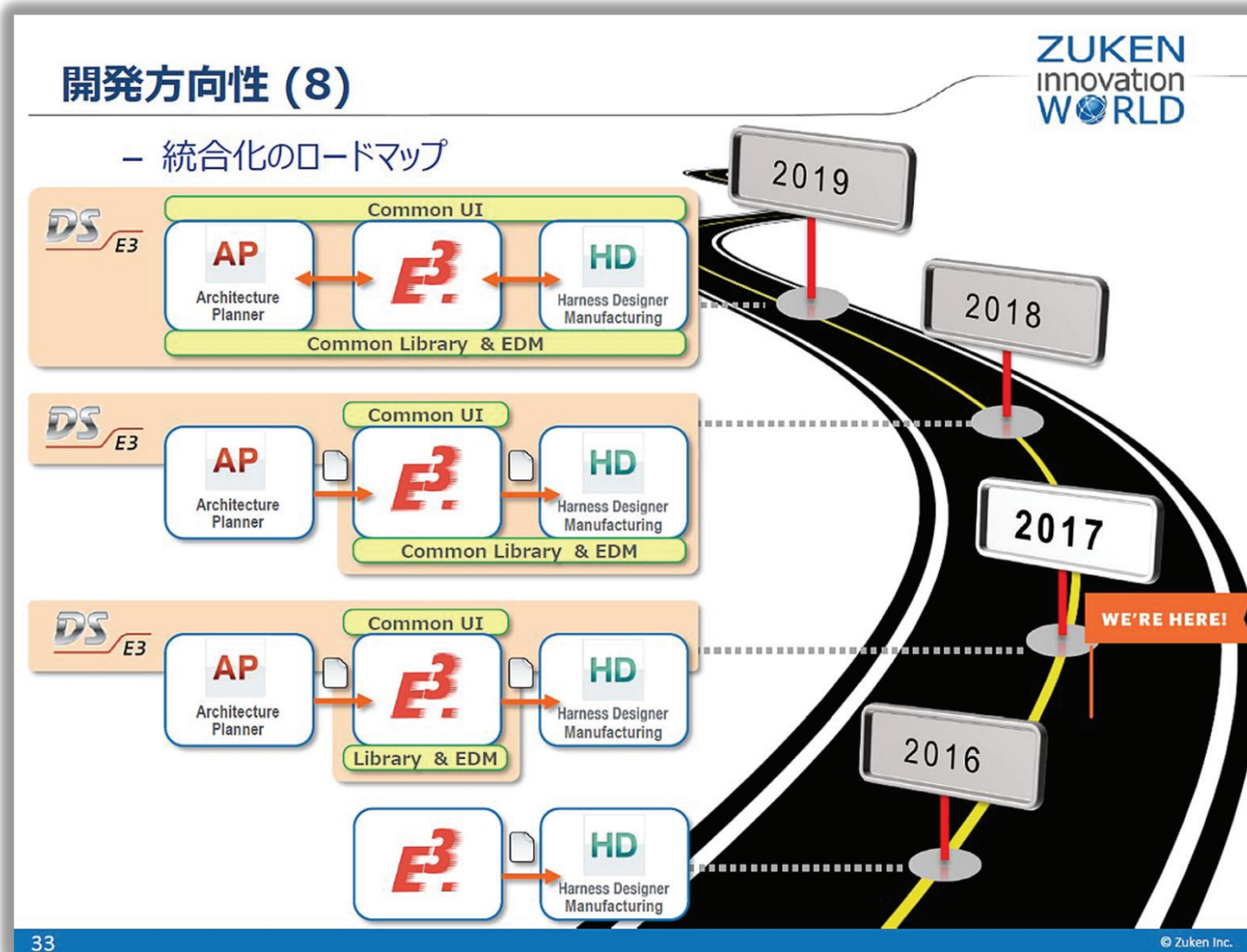
日本/アジアに多く普及
輸送機器向け機能群
輸送機器市場で長い歴史
複雑・大規模システム向けコンカレント設計
製造設計に強み

30

© Zuken Inc.

2017年10月のZuken Innovation World
の発表資料から

2. 中期経営計画前半の振り返り①



2017年10月のZuken Innovation World
の発表資料から

2. 中期経営計画前半の振り返り②

■ 北米市場、アジア市場での事業拡大

→ 北米戦略顧客との関係をアジアのサプライチェーンに展開

- ✓ 北米シリコンバレーのSOZOセンター開設、有カリセラーの統合など、前中計期間に実施した施策が奏功、戦略顧客獲得、売上拡大と黒字化に成功
- ✓ インドは順調にビジネス拡大も北米市場と連携したアジア開拓は道半ば

米国との連携によるアジア拡販は、いくつかのプロスペクトはあるものの、いまだ顕著な拡大に結びつかず

■ 「CR-8000 Design Force」で 先端実装市場開拓

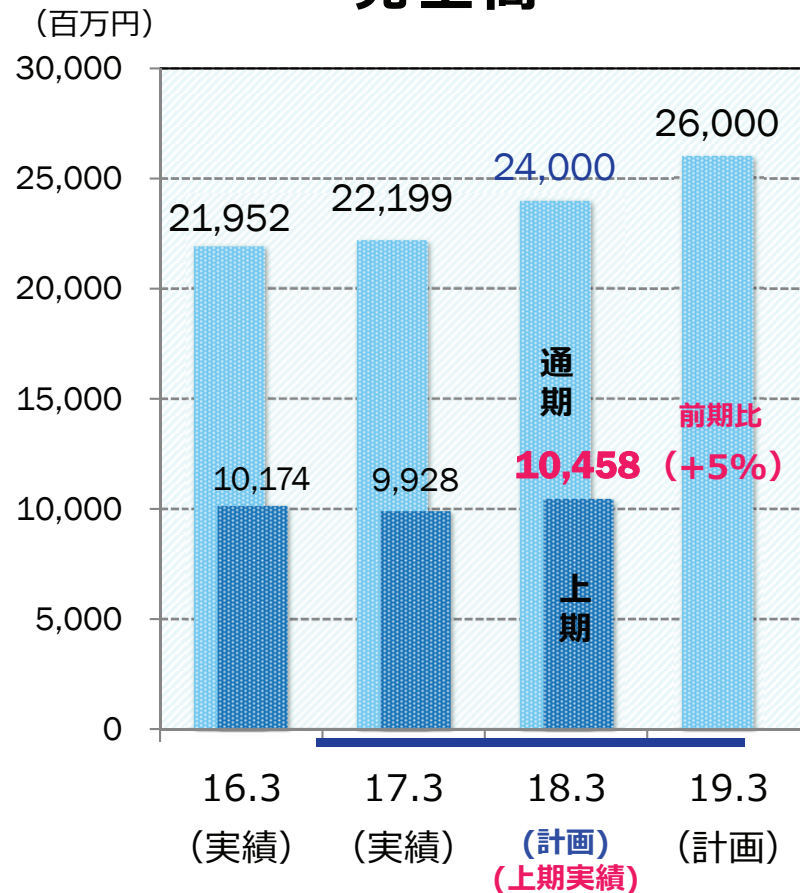
最新の実装技術で「Design Force」の優位性を訴求、より多くの先端開発企業での採用を促す（3次元積層SiP、E-M連携設計等）

3. 3か年計画目標達成に向けて

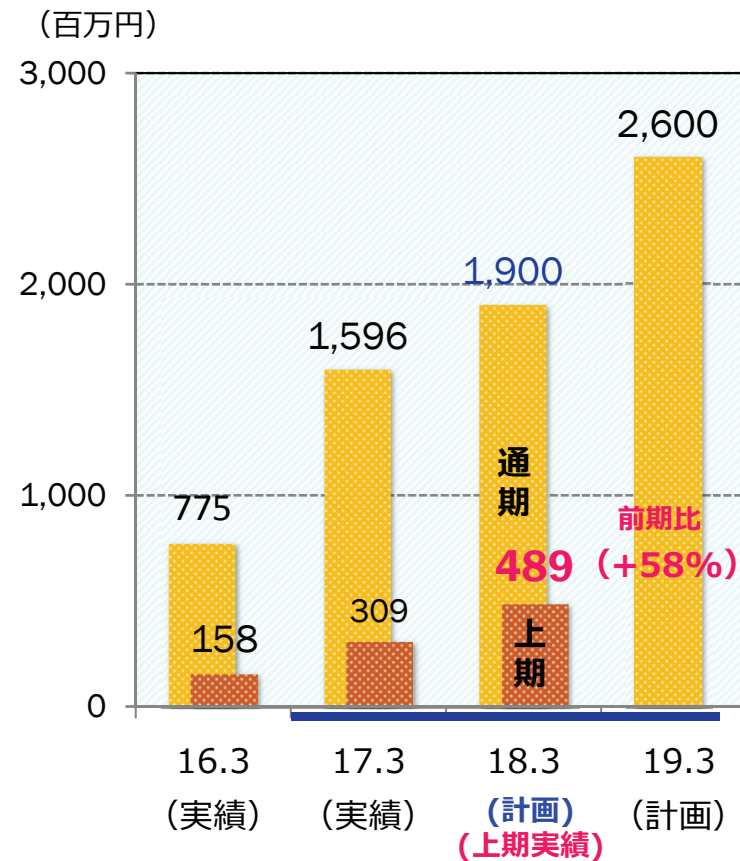
- 新「DS-2」で、高度な次世代E/E開発提案の促進
- (特に欧米) CR-5000からCR-8000への移行促進
(アジア) 現地企業への販売強化
- モデルベース開発、
モデルベース・システムズエンジニアリング分野の開拓
→ M&A、技術パートナーシップも視野に入れた早期立上げ
- 生産・製造技術向けのソリューション、
セキュリティソリューションの販売強化
(製造業のIoT本格化に対応)

1. 中期売上・利益目標と実績

売上高



営業利益



※ 18.3期計画の前提為替レート 1USDドル = **115円** 1ユーロ = **120円**
 18.3期上期累計期間の平均為替レート 1USDドル = **111円** 1ユーロ = **126円**

中期売上・利益目標については変更はありません

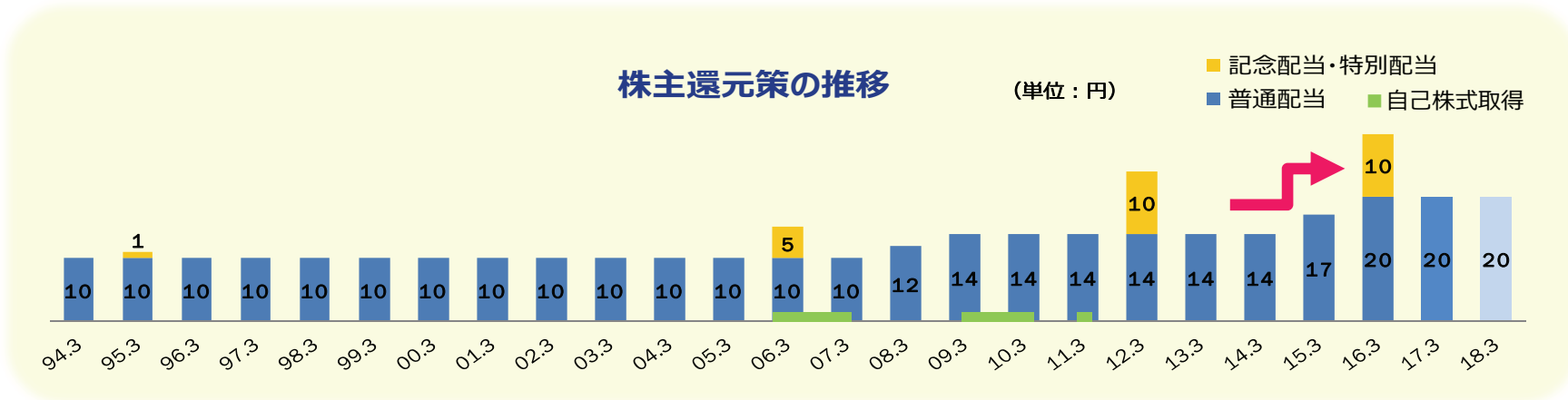
4. 事業地域別 上期実績（昨年度対比）

売上高（※） 百万円	17.3 《上期》 (全売上に占める割合)	18.3 《上期》 (全売上に占める割合)	増減
国内事業 (親会社および国内グループ会社)	6,856 (69%)	7,117 (68%)	+261
海外法人	3,072 (31%)	3,341 (32%)	+269
営業利益 百万円	17.3 《上期》	18.3 《上期》	増減
国内事業 (親会社および国内グループ会社)	167	364	+197
海外法人	108	131	+23

※ 外部売上のみ

5. 株主還元策

方針 株主の皆様への利益還元を経営上の重要な政策と位置づけており、経営基盤と財務体質の強化、充実を図るとともに、業績や経営環境等を勘案し、適宜、最も効果的な株主還元策を実施していく。



実績 普通配当

1987年の上場以来、年換算1株当たり10円以上の配当を継続。2015年3月期の期末配当は、1株当たり7円から10円に増配。これにより、2016年3月期以降は年間20円となる。今後も安定的な増額を目指す。

記念配当・特別配当

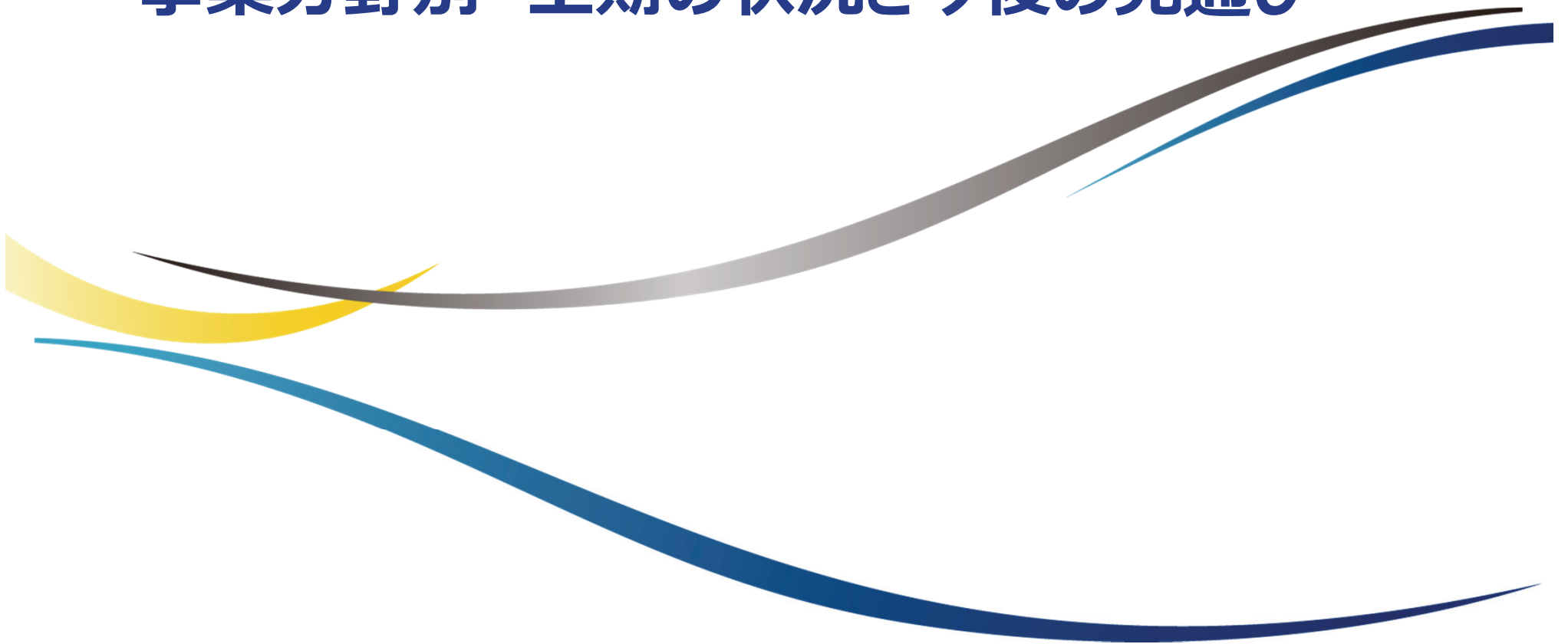
1995年3月期および2006年3月期には記念配当、2012年3月期には特別配当を実施。2016年3月期には記念配当10円を実施。

自己株式取得

2005年06月～2006年06月	2,000,000株
2008年11月～2009年11月	636,500株
2011年02月～同年03月	2,000,000株
合計	4,636,500株

(2011年3月消却済み)

事業分野別 上期の状況と今後の見通し



6. 図研グループの事業領域

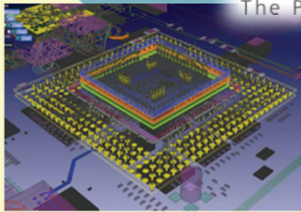
NetWave
もっと速く、もっと安全に

ネットワーク
セキュリティ

エレクトロニクス設計ソリューション
(EDA)

エレクトロニクス製品開発における
実装設計を支援するソリューションと
サービス

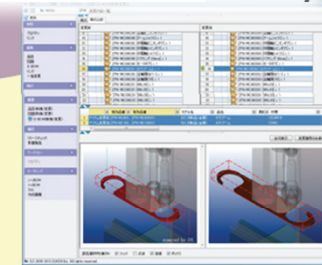
ZUKEN
The Partner For Success



モノづくり基盤ソリューション
(PLMなど)

BOM、ナレッジマネジメントなど製造業
向けエンタープライズITソリューションと
サービス

まっ先に、めざす先。
PreSight DiverSync



電装・制御系設計
メカ設計ソリューション
(ワイヤーハーネスCAD・3DCADなど)

車両向け・産業機械向け電装・制御系設計、
3Dメカニカル設計ソリューションとサービス

組込み
SW/IP

Elmic








サービス
サポート

図研テック

各製品区分に含まれる主な製品と関係会社売上

【各製品区分に含まれる主な製品】

製品区分	主な製品
基板設計ソリューション	CR-8000 Design Force CR-8000 DFM Center CR-5000 Board Designer 
回路設計・ICソリューション	CR-8000 Design Gateway CR-8000 System Planner E3.series Cabling Designer Harness Designer  
ITソリューション	Visual BOM Knowledge Explorer DS-2    
クライアントサービス他	(各製品の保守サービス)

Visual BOM、Knowledge Explorer は、図研プリサイト製品

中期計画説明における製品分野のご説明について

IR資料の製品区分と事業進捗の関連性をよりわかりやすくするため、中期経営計画のご説明においては、以下の分類でご説明いたします。

中期計画説明

基板設計ソリューション

回路設計・ICソリューション

ITソリューション

クライアントサービス

①デザイン・オートメーション製品分野

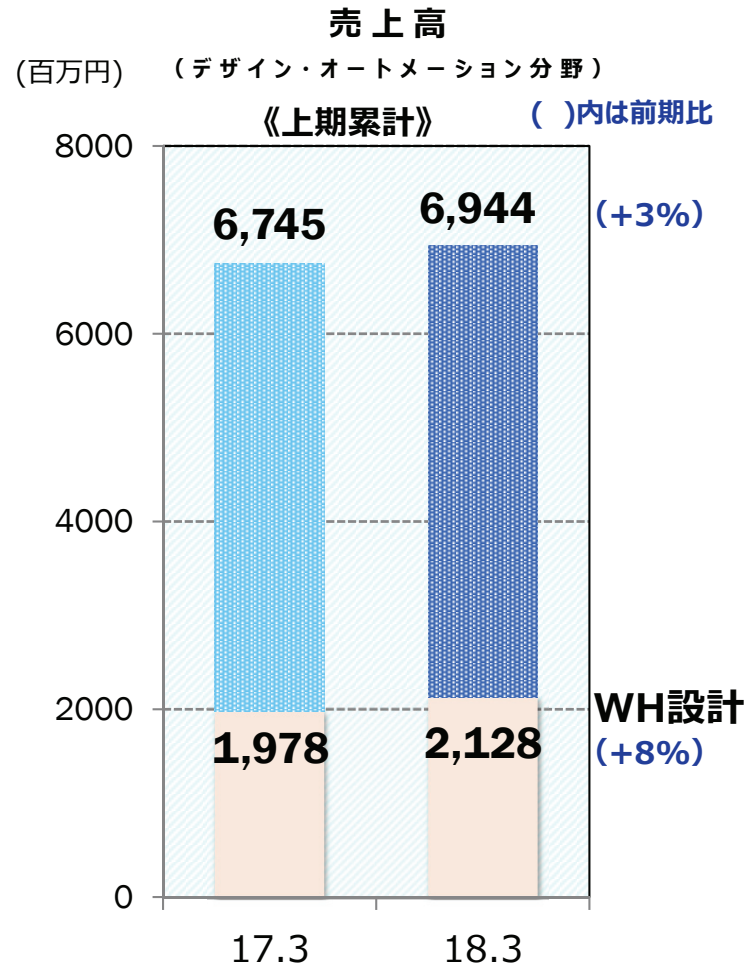
②データマネジメント製品分野

7. 製品分野別 上期実績 (昨年度対比)

製品分野 百万円	17.3 《上期》	18.3 《上期》	増減	伸び率
デザイン・オートメーション分野	6,745	6,944	+198	+3%
(内、WH設計)	(1,978)	(2,128)	+149	+8%
データマネジメント分野	3,182	3,514	+332	+10%
売上高 計	9,928	10,458	+530	+5%

8. 製品分野別 販売状況と今後の施策①

デザイン・オートメーション分野



上期の状況

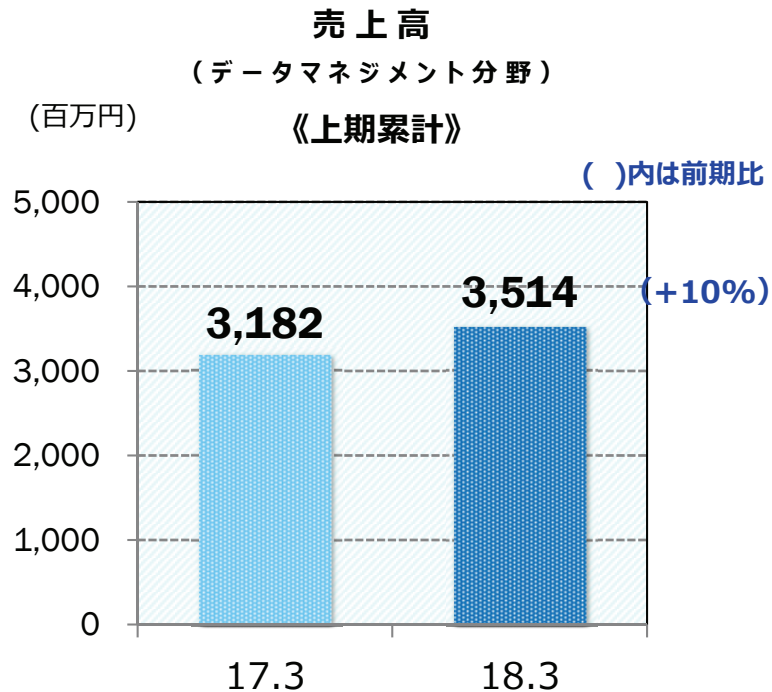
- 欧米での産業機械・自動車向けワイヤハーネス製品販売が好調に推移。
- 国内では、自動車、車載関連で設計プロセス改革を目指すプロジェクトが増加。
- 保守契約の売上も堅調に増加。

下期の見通し

- 欧米の産業機械・自動車向けビジネスは引き続き堅調を予測。CR-8000への移行にも注力。
- 自動車・B2Bからの需要に加え、コンシューマエレクトロニクスの投資意欲も回復の兆し。

9. 製品分野別 販売状況と今後の施策②

データマネジメント分野



上期の状況

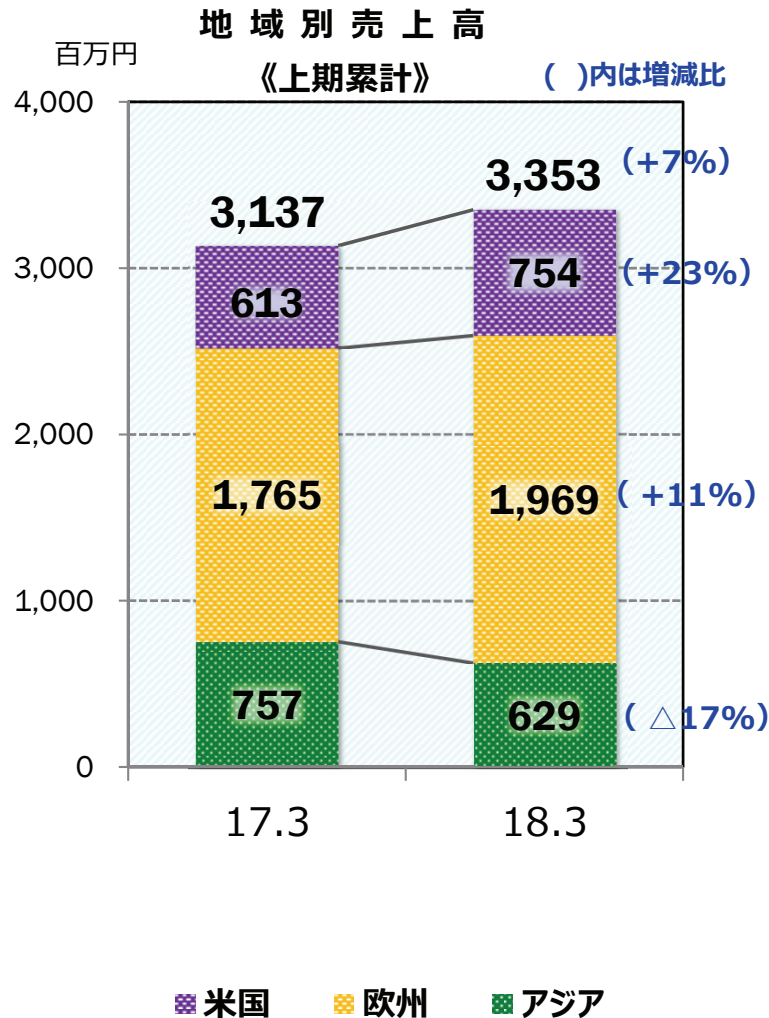
- 国内は、前期から引き続きネットワーク・セキュリティ関連の売上（図研ネットウェイブ）が好調。
- 「DS-2」は北米大手顧客からのTBL（期間ライセンス）が順調に推移。

下期の見通し

- 新製品「DS-E3」（「DS-2」のワイヤハーネス・データ管理拡張版）を大手E3ユーザーをターゲットに拡販。
（国内は下期から販売開始）
- モジュール設計、デザイン・リユースなど、Electrical & Electronic (E/E) 設計分野のプロセス改革を既存顧客に提案。
- 製造業の生産設備分野に対し、ネットワークセキュリティ製品などのソリューション販売を強化。

10. 地域別（海外）販売状況と今後の施策

海外事業



上期の状況

- 【米国】E3.seriesを中心に販売が好調。業界における認知度向上により、データマネジメント製品の商談が増加。
- 【欧州】産業機械、車載関連など既存重要顧客への販売が堅調。
- 【アジア】中国、東南アジアの日系企業に投資減速の傾向がみられた。インドの航空宇宙関連、韓国車載関連向けのビジネスは好調を維持。

下期の見通し

- 【米国】引き続き、戦略顧客向け商談に注力、ユーザーからの評価が高いデータマネジメント製品を前面に出した受注活動に注力。
- 【欧州】主要顧客へのCR-5000からCR-8000のマイグレーション提案、データマネジメント新製品のマーケティング強化。
- 【アジア】中国、インドでの現地企業向けビジネス開拓を強化。韓国は、データマネジメント製品の拡販で売上増を見込む。

ご清聴ありがとうございました。

The page features three decorative wavy lines. A yellow line starts on the left and curves upwards. A grey line starts below the yellow one, dips, and then rises to the right. A dark blue line starts below the grey one, dips further, and then rises to the right, ending near the top right of the page.

【ご参考資料】

図研について

The page features three decorative wavy lines that flow across the lower half. From top to bottom, they are a yellow line, a grey line, and a dark blue line. The lines are smooth and curved, creating a sense of movement and modern design.

会社概要

社名	株式会社 図研 (ZUKEN Inc.)
設立	1976年 (昭和51年) 12月17日
資本金	101億1,706万5千円
従業員数	単独409人 連結1,220人 (2017年9月末現在)
株式	東証1部上場 (証券コード6947)

役員

代表取締役社長	: 金子 真人	監査役(常勤)	: 和田 扶佐夫
代表取締役副社長	: 勝部 迅也	監査役※	: 尾崎 靖
常務取締役	: 仮屋 和浩	監査役※	: 半田 高史
常務取締役	: 相馬 肅一		
取締役	: 大澤 岳夫		
取締役	: 早乙女 幸一		
取締役※	: 佐野 高志		
取締役※	: 荒井 洋一		

※は社外取締役および社外監査役です。

拠点および国内関連会社

本社・中央研究所	横浜市都筑区
国内拠点	横浜、大阪、名古屋
海外拠点	アジア：5か国、欧米：8か国
国内関連会社	5社(図研テック・図研ネットウェイブ・図研エルミック・図研プリサイト・ダイバーシク)



沿革 ①

- 1976 12 株式会社図形処理技術研究所を設立
- '78 06 国産初のプリント基板設計用CADシステム「CR-2000」を開発
- '83 11 米国にZUKEN AMERICA Inc. (現、ZUKEN USA Inc.) を設立
- '85 06 株式会社図形処理技術研究所から株式会社図研に社名変更
- '87 06 株式を店頭登録売買銘柄として(社)日本証券業協会に登録
- '88 01 CADの新システム「CR-3000」を開発
- '91 10 株式を東証2部にEDA企業として初めて上場
- '92 01 ドイツにZUKEN EUROPE GmbH (現、ZUKEN GmbH) を設立
- 01 韓国ソウル市にZUKEN KOREA Inc.を設立
- 08 シンガポールにZUKEN SINGAPORE Pte.Ltd.を設立
- '94 04 EDA垂直統合ソリューション「CR-5000」を開発
- 06 英国レーカル・リダック社の全株式を取得
- 09 東証1部へ指定替
- '97 05 (株)図研プロセスデザイン研究所(現、図研テック株)を設立
- 2000 03 独インケイシス社の全株式を取得
- '01 04 図研ネットウェイブ株を設立
- '02 06 中国上海市に「上海テクニカルセンター」を設立



本社・研究所(横浜)



Zuken Ltd. &
Zuken Technology Center (UK)

沿革 ②

- '04 02 E&E業界に特化したPLMソリューション「ePLMプラットフォームDS-2」発表
- '05 08 台湾にZUKEN TAIWAN Inc.を設立
- '06 05 独CIM-TEAM社を買収（現、ZUKEN E3 GmbH）
- '07 06 CATIA V5をベースとした「V54EE」を発売
- '08 06 エルミック・ウェスコム(株)の株式を27%取得、図研の持分法適用会社に
- '09 06 SoC事業部をエルミック・ウェスコム(株)に統合、7月1日から図研エルミック(株)に社名変更
- '10 05 ラティス・テクノロジー(株)と資本提携、トヨタに次ぐ第二位の株主に
- '11 06 BOMと超軽量三次元フォーマットXVLを統合した「visual BOM」を発表
- 10 次世代電子機器設計システム「CR-8000」を世界で同時発表
- '13 09 アメリカ・シリコンバレーにZUKEN SOZO Centerを開設
- '14 08 グローバル・オートモーティブ&トランスポーターション・コンピテンス・センターをドイツに開設
- '14 12 東洋ビジネスエンジニアリング(株)と資本業務提携
- '15 02 合併会社(株)ダイバーシクを設立（出資割合 図研51% 東洋ビジネスエンジニアリング49%）
- '15 03 インドにZuken India Private Limitedを設立
- '15 07 (株)ワイ・ディ・シーのCADVANCE事業を承継
- '16 04 プリサイト事業部を分社化し、(株)図研プリサイトとして発足



Zuken GmbH
(Germany)



EMC Technology Center
(Germany)



ZUKEN SOZO Center
(USA)

< 注意事項 >

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれています。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。したがって、実際の業績等はこれらの影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知おきください。実際の業績等に影響を与えうるリスク・要素には、各国の経済情勢、顧客企業の設備投資の動向、市場の需要動向、製品の開発状況、他社との競合、為替レートの変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

なお、本資料に含まれる経営目標は、予測や将来の業績に関する現在の推定を表すものではなく、当社グループが事業戦略を遂行することにより達成しようと努める目標を表すものがあります。

お問い合わせ先

株式会社 図 研

コーポレートマーケティング室

横浜市都筑区荏田東2-25-1

電話 045-942-1511 (代表)